

## 令和5（2023）年度第1回県南地域医療構想調整会議

## 令和5（2023）年度第1回県南地域医療構想区域病院及び有床診療所等会議 議事録

1 日 時：令和5（2023）年6月26日(月)19時00分から20時58分

2 場 所：栃木県庁小山庁舎本館 4階 大会議室、オンライン（zoom）

3 出席者：委員29名、県南地域医療構想区域病院及び有床診療所等会議構成医療機関28機関、  
稲野地域医療構想アドバイザー、白石地域医療構想アドバイザー、事務局  
傍聴者：なし

### 4 議 事

#### 議長選任

県南地域医療構想調整会議の設置要綱第5条の規定により、下都賀郡市医師会会長の川島会長が議長に選出された。

#### 第1部 合同会議

##### 議題

- (1) 令和5（2023）年度地域医療構想の進め方について【資料1】
- (2) 令和4（2022）年度病床機能報告集計結果の概要（速報版）【資料2】
- (3) 報告事項資料説明【資料4～7】：

医師の働き方改革について【資料4】

栃木県保健医療計画（8期計画）の策定【資料5】

現医師確保計画の評価及び今後の取組の方向性【資料6】

令和4年度栃木県医療実態調査結果（速報値）【資料7】

令和5（2023）年度地域医療構想の進め方について【参考資料1】

感染症関係【参考資料2】

(事務局) (1)～(3)につき配布資料に基づき説明した。

(川島議長)

県南の病床数は、自治医科大学附属病院、獨協医科大学病院があるため流入数が非常に多く、2次医療圏だけの話ではないこと等も含め、意見があればいただきたい。また、医師確保計画では、出身地の大学に入り、出身地の医療機関等で研修を受けた人の定着率が高いとのデータもあるので補足させていただく。

- (4) 外来医療の機能の明確化・連携（紹介受診重点医療機関）について【資料3】

(事務局) 配布資料に基づき説明。

(川島議長)

紹介受診重点医療機関の基準を満たす医療機関（獨協医科大学病院、自治医科大学附属病院、新小山市民病院）から説明をお願いしたい。

(獨協医科大学病院)

特定機能病院。紹介受診重点医療機関となる意向あり。多くの患者さんがおり、外来の待ち時間は非常に長いので、紹介逆紹介を進めていきたい。

(自治医科大学附属病院)

特定機能病院。紹介受診重点医療機関となる意向あり。初診に占める重点外来の割合が 66.3%、再診に占める重点外来の割合が 25.7%といずれも医療資源を重点的に活用する外来に関する基準を満たす。

(新小山市民病院)

地域医療支援病院であり、紹介受診重点医療機関となる意向あり。選定医療費を設けて診療している。国の示す基準、紹介率逆紹介率も基準を満たしている。外来が多すぎる状況もある。

(川島議長)

基準を満たさないが水準を満たし、意向のある地域医療支援病院(とちぎメディカルセンターしもつが)から、説明をお願いしたい。

(とちぎメディカルセンターしもつが)

地域医療支援病院であり、再診の基準は満たしていないが、紹介受診重点医療機関となる意向あり。6月9日の実績では紹介率 74.16%、逆紹介率 74.5%で条件に合致している。急性期病院にもかかわらず、長期処方患者さんも多いため、かかりつけ医に紹介することで達成できる見込み。すぐに着手予定であるが、達成時期は未定。

(川島議長)

とちぎメディカルセンターしもつがは基準満たしておらず協議となるが、意見はあるか。

《意見なし》

異議がなければ決とすることとしたいが異議はないか。

《異議なし》

異議がないため、紹介受診重点医療機関となることについて、承認された。

(事務局) 基準を満たすが意向のない医療機関(小山整形外科内科、石橋総合病院、リハビリテーション花の舎)につき、報告した。

(川島議長)

意向なしの場合、取扱上も意向を尊重となっており、御了承願う。

## (5) 令和4(2022)年度医療機関意向調査・役割調査集計結果【資料8】

(事務局) 配布資料に基づき説明した。

(川島議長)

変わったこと、今後果たすべき役割で感じていることなどの説明をお願いしたい。

(獨協医科大学病院)

特定機能病院の性質上、今後も、県の高度医療、高度急性期病院としての役割を果たしていきたい。ドクターヘリも所有しており、救急車受け入れ等を含め、今後も救急医療を滞りなく果たしていきたい。地域医療の支援もしていきたい。

新型コロナでは、救命ICUを設置した。コロナの重症患者、新興感染症が起きた場合も引き続き対応していきたい。リプロダクションセンターも設立し不妊治療も行う。新機種のガンマナイフも導入した。皆様にご利用いただければと思っている。

(自治医科大学附属病院)

特定機能病院として、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発及び研修を実施する役割を担っていく。個別では、がん、脳卒中、救急医療、災害、小児、新興感染症等。今後高度急性期医療機関として、現在同様の診療機能・内容を維持しながら、地域における持続可能な医療提供体制の構築に貢献していく。

2025年に向けては、少子高齢化、ポストコロナを見据え、成人系の救急高度集中治療への対応、診療の円滑化、医療用資源の有効活用を図るために、高度急性期病床の再編、利用促進の計画を進める。本年度、開院50周年を迎える。本館が老朽化しているため、建替を見据えた将来計画の策定が課題。今後も地域医療に貢献したい。

(とちぎメディカルセンターしもつが)

予防、救急、急性期から回復期、安静期、緩和医療、介護、訪問看護、訪問リハビリに至るまで切れ目のない医療を提供している。しもつがが急性期、とちのきが慢性期と二つの病院で機能を分化させている。

とちぎメディカルセンターしもつがが、今年から在宅医療後方支援医療機関として届出。7月から認知症外来(休診)を再開予定。小児医療は、ほとんど入院診療をやっていない。来年以降入院診療を充実させて、地域における小児救急医療への参画も検討。コロナ診療は行っている。外来対応医療機関として実際は役割を果たしており、現在申請準備中である。

(新小山市民病院)

大学病院と一般病院の中間的な機能。特に近年、急性期疾患の需要が非常に多いことがあり、紹介率は8割、救急患者も年間4700、脳卒中や心筋梗塞でほぼ毎日。本院は急性期300床だが、39床は地域ケア病棟。完全な急性期ではない。

がん診療は手術、化学療法、緩和ケアは行われているが、それ以外の放射線などはできていない。2025年には難しいが、方向性として見渡している。認知症は患者が多く、認知症疾患医療センターとされても遜色ない機能があると考えており、県の意向もあるだろうが、その方向を目指す。懸案の周産期は難しい問題だが、旗を降ろしていない。婦人科の疾患を診ている。感染症指定は、とちぎメディカルセンターしもつがと共に新型コロナウイルス感染症重点医療機関として対応してきた経緯があり、地域で対応を行う立場と考えている。地域包括ケアも、訪問診療を本格的に行っていこうと考えている。

(星野病院：星野院長)

現在の41床を、2025年には35床とする予定。短期滞在手術患者と、急性期一般の中でも亜急性期増枠の患者が主たる対象であり、在宅療養後方支援や介護施設からの入院要請の患者等と、新小山市民病院等からの終末期緩和療法を目的とした患者等を想定している。入院中のQOLをあげ、心地よい時間を過ごしていただくことを目的に、6床減の35床でよりゆとりを持った対応を行う。

(川島議長) 質疑・要望等があればお願いしたい。

《質疑要望なし》

(川島議長)

大学病院には、今後も充実していただきたい。

新小山市民病院からは周産期、とちぎメディカルセンターしもつがからも小児科を充実

していきたいとの話があった。この地区は医師の充足度から見ても、産科医、小児科医が不足。2025年にできるかはわからないとしてもぜひ意向調査どおりに進めていただけるとありがたい。

(川島議長) 全体通して質疑・要望等があればお願いしたい。  
《質疑要望なし》

## 第1部閉会

### 第2部 調整会議単独会議

#### (6) 外来医療計画に係る医療機器の効率的な活用について【資料9】

(事務局) 配布資料に基づき説明。

(川島議長) 質疑・要望等があればお願いしたい。  
《質疑要望なし》

(川島議長)

来年度大きく本格化するので、よく資料を読み込んでいただき次回御意見をいただきたい。

#### (7) 令和5(2023)年度医療機能分化・連携支援事業費補助金について【資料10】【非公開】

#### (8) その他

(川島議長) 質疑・要望等があればお願いしたい。  
《質疑要望なし》

(川島議長)

資料には、令和5年3月31日の通達、地域金融機関との勉強会など、重要な情報も多いため、次回までによく読み込んで御意見いただきたい。

(稲野アドバイザー)

紹介受診重点医療機関に4医療機関が決まり、また補助金の合意ができてよかった。地域医療のニーズも確認することができ、大変良い段階に進めた。

(白石アドバイザー)

県南は特に流入患者数が多い。紹介受診重点医療機関に専門性の高い4医療機関が決まった。また2025年以降の棲み分けも適切と感じた。今後も頑張ってください。

## 第2部閉会

以上